

令和2年度 東京都立東村山高等学校学校経営報告

東京都立東村山高等学校
統括校長 川瀬 徹

1 今年度の取組みと自己評価

本校は創立53年目を迎え、進学応援型エンカレッジスクール11年目となった本年度、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業をはじめ、想定外の出来事への対応を余儀なくされた。そうした中であって、新校舎棟が竣工し、2学期から新施設での教育活動がスタートした。いわゆるコロナ禍により、旧校舎解体が遅れることとなり、宿泊防災訓練や修学旅行等の学校行事は中止とした。その一方で、感染症対策に十分配慮し、ガイドラインを厳守した上で「他者（ひと）のために、一歩先の自分へ」のスローガンを実現すべく、生徒・教員ともに5つの取組を軸に目指す学校像の達成を目指した。

【取組の方向1】 新校舎への移転とグランド造成工事への対応 達成度 A

7月に新校舎引き渡しを受け、8月末までに新校舎・体育館・武道場への移転作業を概ね終え、9月からの新しい施設における授業開始を可能とした。校外の体育施設を利用して行う計画の体育祭やロードレース大会は感染症の拡大状況に配慮して中止とした。グランド造成は令和4年度秋までかかるため、本年度の校外施設利用計画について次年度に活用していきたい。また引き続き、工事中必要な環境整備をするとともに、特に防災対策と安全対策に努めていくこととする。

【取組の方向2】 村高未来創生事業（「日本一の教育の場とすること」を目指す） 達成度 B

新学習指導要領に基づく教育課程編成準備の推進については、昨年度完成したグランドデザインに基づく教育課程編成を進めた。また高大接続改革に向けた対応では、C l a s s iによるポートフォリオの電子化を1～3学年まで全学年で取り組んだ。「学びの基盤」プロジェクトについては、ワーキンググループによる情報交換を紙面実施とした。日本語検定とリテラスは臨時休業等のために中止としたが、読み書きアセスメントを実施して結果分析を行い、生徒特性を理解した上での生徒指導の方法を検証し、取組3(1)に記す研究授業を実施した。

【取組の方向3】 教育活動の目標 達成度 B

4月5月の臨時休業中や6月の分散登校期間においては課題学習（家庭学習）の提出物を郵送受付（ゆうパック受理）したり、ホームページ等による課題提示・指示・メッセージ発信とする等した。提出物と対面授業における小テスト・定期考査等を総合的に評価し、課題学習の成果を含めた習熟度の高まりや到達度を正しく評価できるよう努め、課題・対面の総合的な評価をおこなった。年間を通じ、中途退学防止（全員進級・全員卒業）を最優先ミッションとしたが、中途退学ゼロにはできなかったものの、進学応援型エンカレッジスクールとして「他者のために、一歩先の自分へ」をスローガンにA I時代を見据えた生徒の育成に努めた。

(1) 各教科・科目の指導

中止した多くの学校行事をするはずであった時間を教室における教科・科目の時間にふりかえる等、柔軟に指導計画の改訂を図り、授業時数を確保した。学習指導要領に準拠した本校独自の「村高スタンダード」に基づき、丁寧な指導を徹底し、生徒の授業評価及び学力調査「村高S P I」の結果を活かした指導内容・方法の改善を図った。「学びの基盤プロジェクト」研究指定校の取組としては、1年生においては読み書きアセスメントと研究授業（総合国語・地理A）のみの実施にとどめた。

各教科指導については可能な限り継続的に、言語活動・ICT機器を活用した授業の充実・情報教育・読書活動・主権者教育等の推進、東京都英語村（TOKYO GLOBAL GATEWAY）での取り組みを進めた。ただし残念ながら図書貸出冊数は2,600にとどまり、不読書率56%となった。分散登校終了後（全校一斉登校開始）からのスタートとはなったが、学校設定教科「体験学習」を実施し、日本舞踊・落語・華道・茶道・和太鼓などの伝統芸術等も体験し、日本の伝統や文化への理解を深めた。また、オリンピック・パラリンピック東京大会が延期となる中、大会開催に向けてオリンピック・パラリンピック教育の継続実施を図った。

(2) 特別活動の指導

年間HR計画で予定した地域や関係機関との連携は感染症対策に配慮したためほとんど実施できなかった。また体育祭・文化祭（若鳩祭）ともに中止とせざるをえなかったが、代替として学年球技大会や学年大縄跳び大会を生徒の実行委員会活動を生かしながら開催し、成就感や達成感を感じさせることができた。

文化・スポーツ等特別推薦の実施にあたっては、改築工事中であり各施設が使用できない状態にあることも影響し、十分な応募を集められなかったが、バドミントン部やバスケットボール部では多くの受験生を集

めた。

全校生徒の部・同好会加入で部活動の活性化を図り続けているが、感染症防止のため活動中止期間がとてども長くなり、ミーティングと家庭等での自主訓練の時間が多くを占めることとなった。なおオリンピック・パラリンピック教育の推進に当たり、年度末にはなつたが芸術鑑賞会（日本の伝統文化に関する講演）を開催し、日本舞踊師範の講演を通じて伝統文化疑似体験をおこなった。

(3) 生活指導

全教職員協力の下、基本的な生活習慣を確立に努め、セーター・ベストの指導について昨年度構築した共通認識に基づき、共通した指導ができた。今年も東村山警察署と連携し、セーフティ教室、薬物乱用防止教室を行うと共に、「安全教育プログラム」を活用し、安全教育推進校として自転車乗車マナーの向上と生徒の危機回避能力の向上を図った。

特別な支援を必要とする生徒への細やかな対応をするため、教員、SC、YSWの連携は一層充実した。これらにより、自殺防止、SNSに関するトラブルについて丁寧な指導を行った。

(4) 進路指導

「総合的な学習(探究)の時間」を通して、本校生徒の多様な進路に対し、組織的に3年間を見通した系統的なキャリア教育を推進した。「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム」は1学年・2学年で実施した。いずれもコロナ禍のため十分な指導時を尽くしきれなかった事項もあるが、次年度も継続実施するなかで不足する内容を補完していく。

(5) 総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」を通し生徒の興味・関心・意欲を高める課題に取り組み、主体的な活動実態を適切に評価し、継続的・発展的にポートフォリオに記録・反映する試みを重ねた。

「総合的な学習の時間(人間と社会)」の学習を通して自らを磨き、本校の目標である「他者のために一歩先を目指す」ための人間としての在り方生き方を学ばせ、道徳教育の充実と自らの進路実現に向けた自己決定能力を養った。総合的な探究の時間を活用し、ボランティアマインドの育成を図った。また、各教科の活動とも連携し、社会生活を送る上で、探究する力を高めるよう努め始めているが、今後一層の指導が必要である。

(6) 体力向上・環境整備

「アクティブプラン to 2020—総合的な子供の基礎体力向上方策(第3次推進計画)」に基づき、体力向上年間目標と年間取組(毎授業での補強運動)を設け、目標を達成した。また、新校舎移転後も、引き続き保健・美化体系を強化し、校内環境の整備と生徒の健康管理を充実しに努めている。

【取組の方向4】 教育目標達成のための特色ある教育活動等

達成度 B

入学してくる生徒の変化にあわせ内容の工夫を重ねながら、教育目標達成のための特色ある教育活動として、全校で計画的な朝学習を実施し、基礎学力定着及び読書活動を推進させた。図書貸出冊数は登校日が減少したこともあって、図書館での活動をする機会が減り、大きな改善が見られなかった。対策として、家庭学習日でも読書への関心を引き出せるよう図書館だよりに教員による書籍案内(推薦図書)や新規購入図書案内を掲載し、一度に貸し出しできる冊数を臨時に増やす措置もとった。

第1学年においては学年球技大会や大縄跳び大会を開催し、集団行動や社会生活に必要なルールを身に付けさせ、校内寺子屋事業等の学習サポート、進学指導・キャリア教育の充実を図った。

学力向上研究校として校内寺子屋事業により家庭学習を補完し主体的に学習する態度の育成を目指し、参加生徒の学習姿勢を向上させた。

また、臨時休校や分散登校により減じた授業時間数の回復と確保に努めるため、学校行事を精選し、学校活動を保護者・地域の方々に理解していただくため、コロナ禍で感染症防止のため直接開放はできなかったが、ホームページや若鳩だよりの記事の内容充実を図り、開かれた学校を目指した。

【取組の方向5】 働き方改革

達成度 A

授業時間数の回復・確保のため学校閉庁日は計画を縮減せざるを得なかったが、一方で月当たり時間外勤務45時間を超える教員をゼロにするという目標の達成月は拡大した。これまで以上によりよい人間関係の構築に努め、働く環境を整え、ライフ・ワーク・バランスを図り、教育の質の発展・向上と業務内容の精選の両立について考えた一年であったといえる。

令和2年度の数値目標と達成状況

数 値 目 標	達成状況
① 前期応募1.5倍以上 学校見学会・説明会1500名以上 (6回実施) 個別相談件数100組	B
② 年間200回以上更新 若鳩だより毎月50カ所以上に配布	A
③ 生徒の学校生活の満足度75%以上、中退者0、エンカレッジスクールの満足度 80%以上	B
④ 生徒の授業満足度75%以上、家庭学習時間1日平均30分以上、長期休業中全学年で30講座以上 校内寺子屋講座参加者10名	B
⑤ 図書貸出冊数3000冊以上、 不読率40%以下	B
⑥ 部活動加入率 1学年100% 年度当初全学年85%以上 3年生65%以上 都大会出場3部以上	B
⑦ SCとYSWへの相談件数合計460件	C
⑧ 体力テスト 総合評価AとBを合わせて35%以上	C
⑨ 進路決定率95%以上 進学決定率100% センター利用1名以上 一般受験1名以上 日東駒専クラス4名以上 就職内定率100% FineSystem面談活用率100%	B
⑩ 英検+漢検+リテラス合計65名以上 注意；学びの基盤事業計画変更により、リテラスは不実施。	C
⑪ 東京都英語村利用者数 150名以上	A
⑫ 校内研修5回以上、昇任選考受験者発掘	A
⑬ 週当たり在校時間が60時間を超える教員をゼロにする 月当たり時間外勤務45時間超ゼロ 全職員の年休5日以上取得を目指し、学校閉庁日5日実施する	A